



各会場には町民の皆さん延べ 127 人が参加。町政に対する熱心な意見・提言をいただきました（写真・邑楽町公民館）

町づくり座談会 皆さんの声を明日の町づくりに役立てる

町は、7月27日から29日まで、町内3会場で「町づくり座談会」を開きました。

町の財政運営や基本計画などを町長が説明し、
町民の皆さんから意見を聞きました。



各会場の参加人数

7/27 長柄公民館	41人
7/28 邑楽町公民館	41人
7/29 福祉センター寿荘	45人

財政運営、町の災害対策、
生活用道路の修繕、放射能問題など
たくさんの方の意見が寄せられました

7月27日から長柄公民館、
邑楽町公民館、福祉センター
寿荘の町内3会場（全3回）
で開催した町づくり座談会に
は、町民延べ127人が参加。
町からは金子正一町長や担当
課長らが出席し、直接住民の
声に耳を傾けました。

座談会の冒頭、あいさつに
立った金子町長は、「町づく
り座談会は、安心安全な町づ
くり、住んでよかったと思え
る町づくりを、町民の皆さん
と共に考えていくための大切
な意見交換の場です。適正
円滑な行政運営のもと、『や
さしさと活気の調和したまち
づくり』を町の将来像とし

▶町づくり座談会で町民の皆さんからいただいた
意見・提言などを一部紹介いたします

町民の意見・提言に答える

適正円滑な行政運営のもと、町の将来像
「やさしさと活気の調和したまち」を目指す

―過去の座談会で出た意見は、町
政にどのように反映したのか―

学校へのエアコン設置の要望を
いただき、平成22年・23年度事業
で各小中学校、幼稚園の各教室に
エアコンが設置されました。

また、邑楽町産の農産物使用の
意見をいただき、現在は学校給食
で週1回邑楽町産の米を使用して
います。野菜についても13品目の
邑楽町産野菜を使用しています。

―町も借金をせず、大型企業を誘
致するとか、歳入を多くするため
の具体的な政策が必要だと思っ
たが、鞍掛第3工業団地は現在1ヘク
タールを2区画残して、すべてが
工場など誘致できませんでした。誘致に
関する町の奨励金などの予算も計
上しています。

農業についても邑楽町産白菜が
「邑美人」というブランドで、東
京市場に出荷するまでになってい
ます。ほかの農畜産物も地産地消
協議会でブランド化などの取り組
みを行い、商工関係では新しい商
品開発に対して、奨励金を支給し
て振興を図っています。農工商一

体となった町づくりを、今後も目
指していきたいと考えています。

―鶴区画整理事業は当初平成35年
の完成を目指すということだった
が、今後どのように進めるのか―

区画整理事業は、大変遅れてい
ます。予算の中でも移転補償費が
大きな割合を占めています。

単独の道路整備は区画整理区域
では、二重投資になってしまい、
実施できない状況です。ですから、
仮換地した所については、道路整
備を優先していく予定です。

―東日本大震災や大雨による水害
があったが、町の対応や町民に対
する避難場所の周知はあったのか―

東日本大震災では、町は地震直
後に緊急対策本部を設置。被害状
況調査を行いました。建物の被害
が多発していることから、現在も
被災されたかたへの見舞金交付は
続いています。

避難場所については、各地区の
避難場所が記載された「邑楽町ハ
ザードマップ」を、すでに全戸配
布してありますので、ご覧になっ
てほしいと思います。町では防

金子正一町長
Kaneko Masakazu



災訓練も予定しています。何より
町民の皆さんに防災意識を高めて
もらうことが重要だと感じます。

また、大雨により農道は大部分
が冠水、通行止めの対応を行いま
した。住宅地でも道路が冠水し、
土のうを積んで対応した所が8か
所ほどありました。

―放射能について、邑楽町は安全
なのではないか―

町では放射能測定器を2台購入
して、空気中の放射能測定を行っ
ています。町内すべての測定地点
で、文部科学省が示した暫定基準
値毎時3・8マイクロシーベルト
を、大きく下回っています。今後
も定期的な測定を行い、結果につ
いては随時町ホームページなど
で、お知らせしていく予定です。

町づくり座談会についての意見・提言（座談会アンケートより）

区長さんの発言が多かった。それぞれの区で困っていることで町側の
答えを聞くことは、ほかの参加者にとっても有意義なことだと感じた

座談会への参加者が少ないので、毎年実施する必要はないと思う。3
～4年に一度の割合でよいと思う。参加者がほとんど地区の役員なの
で、直接担当課に行って話すこともできる

一人ひとりの質問時間が長すぎる。各論（区単位の利害）より総論（町
全体）のキャッチボールを

町の将来構想などテーマを決めて討議すれば、多くのアイデアが聞け
ると思う。「こう決まりました」の方法より「こう決めたいけどどうか」
の姿勢を町民は求めている

女性からの意見が少ない。事務局から意見を出していただくよう声を
かけてもよかったのでは

参加された人たちはまじめに町づくりを考えている。広く提案などを
聞き、今後の町政に反映させていく必要があると思う。やる気のある
町にしたい

※今回の座談会は60歳代の出席者が、全体の約9割を占めています。
若い世代が多く出席する座談会を目指すことが今後の課題です。

